

山筆

第21号 / 1996・4

土佐中・高同窓会 関東支部会報 編集人/藤宗 俊一(42回)

〒106 東京都港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 ☎03-3587-6200/FAX03-3587-6201



田島征彦・征三(34回生)作『ふたりはふたご』より

空の新兵

二月初旬の赤坂の夜である。取引先との会食で、「明日、パレンバンに立上ります」と話をすると『藍より蒼く大空に……見よ落下傘空を征く……』と大合唱となった。軍歌としては珍しく血腥い言葉は一つもない梅木三郎作詞・高木東六作曲の『空の神兵』。名曲である。

戦後育ちの方々には説明の要があるが、太平洋戦争の原因の一つに日本に対するアメリカの石油禁輸政策がある。帝国海軍は真珠湾侵攻と同時に石油確保のため、当時の蘭領インドシナのパレンバンに落下傘部隊を投入し、逸早く占領して、南方の拠点構築したのである。弊社社員の中にも海軍々属として応召し駐留した先輩諸兄が大勢いて、この歌を唄う。

さて平成に戻る。私は、国のエネルギー政策が炭主油従から油転に変化する昭和三十年代に三菱石油に入社した。石油がアメリカで企業化されて丁度百年目に当たる一九五九年である。

戦後すぐに、復興の礎としてエネルギーの大宗は国内炭の生産に集中した。しかしながら労働争議の渦と事故の続く非効率から石炭の命運は尽き、石油が登場する事となったのである。今約五十年を経過して、その間幾度かの石油危機を乗り越えながら、エネルギーの礎は原子力・LNG・LP・石炭・水力等と多様化して、石油は緊急時のバッファに使われる仕儀となりつつある。

そこで再び登場となるが、私はパレンバンに舞い降り、そこからヘリコプターを利用して、今は全く雰囲気変わった野天堀の壮大な石炭鉱山に降り立ったのである。それは石炭買い付けの為であり、石炭公社総裁との折衝を始める一石油人の『新兵』の姿であった。

『大蔵事務次官の闘い』
東洋経済新報社一五〇〇円
●51回 坂東 眞砂子
『桜雨』 集英社一八〇〇円

筆山会だより

第29回筆山会ゴルフ(10・19)

今回もまたメンバー全員の
行いの良さを証明するかの如
き好天に恵まれ、前回5位に
甘んじた川崎氏が優勝。

①川崎 洋輝(37) 86 12 74
②小松 三男(41) 90 16 74
③橋田 正幸(37) 96 18 78
④宮川 洋治(33) 92 13 79
⑤長野 博子(38) 96 17 79
B G 小松建紀(33) 45 41 86
北岡(5)中尾(9)山中(24)
山本(25)福本(28)溝淵(32)
竹田(33)高島(33)八井田(34)
三宅(38) 次回は30回記念
大会。5月16日(木)です。

すきま風

■『女流プロ棋士』誕生やと
土佐中棋道部三年の島井咲
緒里さんが、この春からプロ
の棋士としてデビューするこ
とが決まった。優勝したも
んだけがプロになれる日本将
棋連盟女流育成会リーグで、

編集後記

島井さんはたつたの二回目の
挑戦で優勝してスツとプロに
なった。しょうえらい子が
おるもんねえ。土佐に将棋の
クラブがあるらあいうことも
知らざったけど、中学生が、
それもおまん写真で見たらエ
クボのかいらしい童顔の女の
子がプロの将棋指しになるら
あいうて、まっことすごいぜ
よ。そういや土佐高には、ユ
ニバシードからオリンピック
クまで狙えそうな子安健二君
ゆうバタフライの選手がおる
とねえ。

土佐もいよいよマルチなタ
レントを出す面白い学校にな
りゆうねえ。おんちゃんもし
よう鼻が高いぜよ。これで成
績も昔みたいなかったら、も
っと嬉しいけんねえ。

■「ヨサコイ祭りに出たいね」
という話になると、がぜん目
を輝かせたIさんと私。昔踊
つて楽しかったことを思いだ
し「ヨツチヨレヨ」と歌やハ
ヤシが出ると同時に手足が動
きます。編集会議そつちのけ
で「やろう、やろう」と乗り
だす。「ワシがおしえちやる
き」と自信満々のIさんの手
つきは、さすがが見事。9年若

いの私の踊った振りと同じ。
ただそれだけなのになぜか無
性にうれしかった。同窓会と
いう仲間の中でいつまでも若
さを失わないでいたい。(S)

■司馬遼太郎氏が逝った。我
が家の小さな書棚の、僅かな
書物の大半を占める氏の作品
が、その日から遺品となった
その一行一行が氏の遺言にな
った。日本人を愛し、日本の
将来を案じた氏は、その絶筆
の中で問題の住専にふれ「せ
めて公的資金でそれを始末す
るのは当然である」と断ずる。
私を含め、己が住いや、田畑
や、生活の基盤であるべきは
ずのものを、金儲けの元手に
しようと考えなかった日本人
が、あの時期何人いたであろ
うか。怒りを抑えつつ原稿に
向かう、氏の両の手の震えが
伝わってくるようになった。(T)

■「総会が5月になったので
3月に発行」という事務局長
からのお達し。9ヶ月のゆと
りに気をぬいて筆山のことを
すっかり忘れて遊びほうけて
いたら、あつという間に2月
ちようど年度末と重なり死ぬ
思い。ただ一つの救いは足の
裏からの「秋には帰る」とい
うFAX。空手形にでないこ
とを祈るのみ。(F)

TONTON カラオケ・スナック

幸田 みどり

(土佐女子出身)

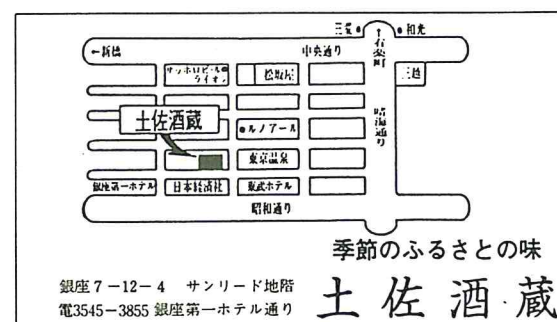
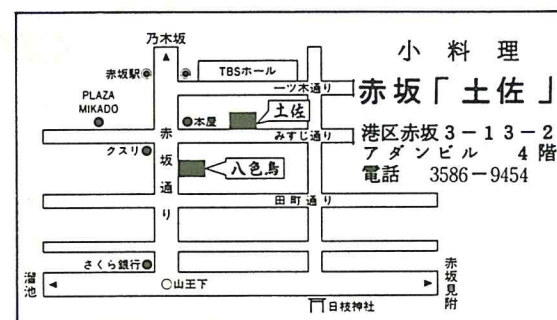
〒160 東京都新宿区歌舞伎町2-46-7 第三平沢ビル7F
TEL 3205-3177 (西武新宿線北口前)

都会の中の小さな土佐

土佐料理 土佐酒蔵

〒104 東京都中央区銀座7-6-8(西五番街) ☎3572-9640

- 赤坂店(赤坂みすじ通り) ☎3585-9640
- 新宿店(新宿住友三角ビル) ☎3344-6585
- 渋谷店(シオノギ渋谷ビル) ☎3407-9640
- 幹線亭(新宿野村ビル) ☎3348-2727
- 加寿翁(新宿住友三角ビル) ☎3345-0881



大学入学おめでとうございます！

先輩からのメッセージ

質問事項

- ① 大学時代に (出身大学)
- ② 一番楽しかったこと
- ③ 一番つらかったこと
- ④ 他に誇れる母校自慢
- ⑤ 大学の経験で現在役に立っていること
- ⑥ 感銘を受けた本・映画等
- ⑦ お気に入りだった食堂、飲み屋、喫茶店など
- ⑧ 新入生に贈る言葉

- 32回 竹中恵美子(東女大)
 - ① 入学時の期待に胸をふくらませていた頃。
 - ② 自分の非力を常に悟らなければならなかったこと。
 - ③ 自由な真理の探究。
 - ④ 個性ある友人にさまざまな影響を受けたこと。
 - ⑤ 『聖書』何故世界に伝播したか今でも謎ときをしている。
 - ⑥ 渋谷の音楽喫茶「田園」、ラテン音楽専門店等。
 - ⑦ 我が国の絶頂期は終わった。日本をアジアの国々の中に埋没させてはならない。そのために戦略的思考の涵養と他民族との付き合い方を

同期会

- 30回 小野 武男
毎年開いていた30回生の同期会は、支部総会と日程が重なったため、秋にずらします。毎年出席されていた恩師の故公文先生の追悼の気持ちをこめて開きたいと思っております。
- 41回 鶴和 千秋
春は支部総会に多教ご出席下さい。

『卒業三十周年記念大同窓会』が、来る5月25・26日に一泊二日で高知の手結にあるリゾートホテル『海辺の果樹園』で行われます。「三十年振り返り二度目の修学旅行」です。高校時代クラブ活動等の理由で参加できなかった方、あの素晴らしい思い出をもう一度とお考えの方、とにかく関東在住一〇〇名の41回生ドットと高知へ繰り込みましょう。なお、二年毎の五月の第三土曜日に開いていました41回

バーチャル・リアリティで研鑽を積むこと。

- 32回 溝淵 真清(立教大)
 - ① 高知以外の世界を知った。友人ができた。
 - ② 60年安保活動の挫折。
 - ③ 新進の若手教授が多い(当時)。
 - ④ 教授、クラブ活動等を通じての人脉。
 - ⑤ 『何のための豊かさ』『聖書』
 - ⑥ 学食
 - ⑦ 乱読すること、友人をつくること、恋をすること、英語をマスターすること。
- 38回 窪田秀忠(早稲田大)
 - ① 吉永小百合さんに微笑んで貰ったこと。
 - ② 金がなく飢えと寒さにふるえていたこと。
 - ③ 夢見る夢男、夢子が多い事。
 - ④ 酒を飲み、人生を語った事。
 - ⑤ 東映ヤクザ映画。
 - ⑥ 早稲田茶房の良子さん。
 - ⑦ 私は5年間で学んだが、4年で卒業せずに出来るだけ長く在学し、社会に出るのを遅くすると良いと思う。
- 40回 塩田 潮(慶応大)
 - ① 一週間分のカレーを作り、仲間数人と下宿で毎日カレー

ーを食ったこと。
② 金がなくなった時、カレーしか食えなかった事。
③ 安い割にそこそこ旨かった構内食堂。
④ 下宿での自炊。政治学。
⑤ 高坂正堯著
『海洋国家日本の構想』
⑥ 日吉の「ハイラル」三田の「三色」(いずれも雀荘)
⑦ とにかく体力、気力、知力の蓄え。

- 52回 天造 豊彦(都立大)
 - ① ヒンドウスクワット千回達成!
 - ② フランス語の単位取得に苦勞した。
 - ③ 我慢じやないです。小宮悦子と同級生です。
 - ④ アルバイトを通しての営業の面白さ。
 - ⑤ チャップリン『街の灯』
 - ⑥ 喫茶キャンドル。王貞治愛用の「松月庵」
 - ⑦ 大学は社会に出る為の予備校です。勉学より自分の適性を発見するため、幾多のアルバイトをした方がいい。

現役大学生からも

- 69回 島津 大輔(一橋大)
一橋大学は中央線で新宿から約30分ほどの国立市にあり、国立は大変お洒落な街でメインストリートの『大学通り』は春は桜、秋は銀杏の名所となっております。大学の建物はNHKの朝ドラ『春よ来い』の撮影にも使われたレンガ造りのロマネスク様式で、大変格調の高いものです。授業については「西の京都、東の一橋」といわれる様に極めて楽で、必要とされる授業数は他大学に比べて少なく、試験を通すことも簡単です。一度も授業に出ずにAを取ったという話も数多く存在します。しかし、3年生から全学生必修となるゼミに入ると相当鍛えられます。数百ページもある英語の文献と格闘したり、教授の厳しい突っ込みを受けたり、とにかく大変ですが、こんな大学ですが、高知での知名度は低いようなので、機会があれば是非訪ねて来てください。
- 69回 谷口尚子(東京外大)
私が大学生になっても二年ですが、一番困ったのは何と言っても試験です。やりたことしかやらなくてよい学生にとつて唯一の例外でしょう。まともにやれば単位がもらえるとは限らない。学校によつて大きく違うので自分の大学をまずちゃんと見極めま

しょう。情報収集はうまく学生をやっていく最大のポイントです。これだけやっておけば日頃はそれに応じて楽なことができます。情報だけでは話にならないものもありますが、情報なしでは本当に話になりません。気をつけましょう。そのためには、一人でも多くの知人を作るのが何よりも大切です。無理に友人にならなくてもよい。大学生は本当に時間もお金もどうにでもできますから、このことだけは忘れず、どんなことでもやってみて、自分の将来進む方向を自分で選んで下さい。そして何より、大学生活を楽しんで下さい。

●70回 小松 正利(筑波大)
大学に入つて一年ぐらいの私が先輩風を吹かすのもなんです、めったにない機会なので、いくつかアドバイスさせて頂きます。参考になれば幸いです。

まず、男の人は麻雀を覚えましょう。大学生といったら麻雀です。麻雀を知っていれば交流の輪は格段に広がるでしょう。

次に、サークルは良く考えて入りましょう。私は今、弓道部に入っていますが、練習

出版レーダー

生関東同窓会は、今年は同日開催となった支部総会に合流します。一週間後の打ち合わせもありますので、多数のご参加をお願いします。

- 20回 竹村 昭雄
『一検察官の軌跡』
法学書院 二四七二円

検事という一般には馴染みの薄い職場での自分史が、喜び、苦悩、批判をまじえながら、著者の暖かい人間愛を通して語られている。尚、前号の『一億二千万分の一の役割』の全文も収録されています。

- 29回 倉橋 由美子
『夢幻の宴』

講談社 一六〇〇円
久々のエッセイ集。漢文、漢詩好きのきつかけとなつた吉本泰喜先生のことや、ご自身の難病にもふれている。冥界からの悪戯のことだが、まだまだ書き続けてほしい。

- 38回 柿田 睦夫
『霊・因縁・たたり』
かもがわ出版 一四〇〇円
『現代こころ模様』
新日本出版社 九二〇円
●40回 塩田 潮

書評

泣き虫 怒り虫

10回生 立仙 浩一 著

れた父の乳首を無心に吸わぶる娘もふびんでならなかった。……母の乳を遂に知らなかった娘は、母の齢をすでに越え、今では三児の母となっている。幸い母乳に恵まれ子に与えた。私は幼い孫娘を抱き上げ、頬ずりして甘ずっぱい乳の匂いを嗅いでみる。すると、あの時の娘のこと、私の乳首の痛さを憶いだす。」

貧しい中、懸命に働いて著者を私立の進学校に入れた母からの手紙「…ははわそなたのことをいつもあん

じております…やすみにわなるべくもなくてくだされ…ははわまっております…」金釘流の平仮名でザラ紙の上につづられた「ははわまっております」という切ない響きが、著者をそして読む者の胸をしめつける。が、著者は毎日を切なくしみじみとばかり暮らしている訳ではない。奈良秋篠寺の伎芸天像に、不謹慎にも肉感的な女の魅力を感じてしまったり、テレビCMに怒ったり微笑んだりもしているのである。

独自の観点からの切り込み。年齢を感じさせぬ瑞々しい感性と慈愛に満ちた眼差し。誰にでもある躊躇する心を包み隠さず表現する心のゆとり。それを厭味に感じさせない洗練された日本語による文章。一言で言うなら『心やさしいきいごつそう』の、バランス感覚溢れるエッセイ集である。自費出版による私家版で、残部が無くなってしまったのは誠に残念だが、事務局に寄贈された一冊を皆さんと回し読みしたいと思う。

廊下を走っていて、曲り角でぶつかりそうになった校長に名指しで叱られた。百五十人の生徒全員の名前と声を覚え、著者に父のいないことまで知っていた初代三根校長。我慢していた小便を思い切り出す。この解き放った感じがリリース(release)の意味じゃと教えた英語の吉川先生。漢文のヒゲ、ベルトの代りに兵児帯で教室に現れた数学のビン。戦前の土佐中に学んだ方々には懐かしい名前が登場するこのエッセイ集は、著者が三年間書きためたものに、孫娘が心を込めて題字を書き、女婿が編集発行した、手作りのエッセイ集である。

著者が甲子園の連続敬遠騒動に出逢った時、「高知は石川に負ける訳には行かない」と言った監督の言葉に戸惑い、まともな球を投げたかったに違いない投手の気持ちを思いやる。そして、これが土佐高でなくてよかったとホッと、しかも「この自分のエゴが何とも後ろめたく」落着かない思いをする。

とかく自分の考えに固執し、相手の声に耳を傾けようとしないう『エッセいごつそう』が多い中、著者は、日々の色々な出来事や、社会現象を冷徹に見据え、時として怒りを覚えながらも、それぞれの立場にある人々の心にも目を向ける。

その著者の目が家族に向けられる時、それは更に感動的である。「……生まれた我が娘に乳をやれぬ母も哀れなら、母に抱かれることもなく、戯れにあてがわ

日の出町から

絵本作家
34回生

田島 征二

土佐中、土佐高に通っている間は理科も化学も苦手だったのに、今は化学物質の生物濃縮についてなどというようなことを人前でしゃべったりしている。

ぼくの家のすぐ近くに東洋一のゴミの処分場ができて、底に敷き詰められた1・5ミリのゴムシートの裂け目から有害物質が出てくる。行政はこのことを隠し続け、ついに裁判所の決定をも無視し一億円に近い罰金をわが家に支払い続けている。それは、すぐ近くに建設を予定している第二処分場を強引に着工するためである。

ぼくは全国で講演してまわっている。いま処分場問題をかかえているのは、ぼくの住んでいる東京の日の出町だけではなく日本中の山間部問題であるからだ。水のおいしいきれいな流れのある国であったはずの日本が今は最悪の水質汚染国になろうとしている。

だから、そのことをぼくは訴えるのであって、ゴミ処分場はぼくの近くからなくなればいいというような地域エゴのレベルの運動をしているのではない。

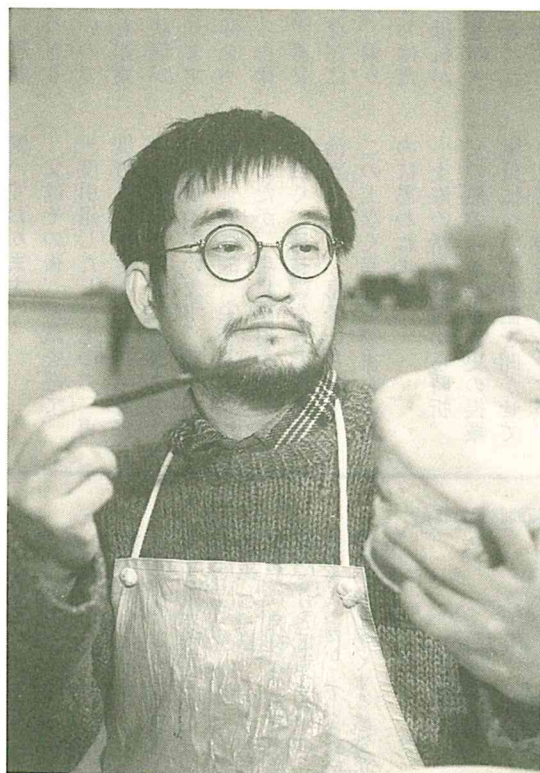
日本ではゴミを焼却したり、海辺や山間部に埋めている。ゴミの焼却によって地上最強の毒物ダイオキシンの発生することはゴミ問題に関わる人々にとってはもうすでに常識であるが、まだ一般にはそれほど知られていない。それをいいことに日本の行政はゴミを燃やしまくった。その結果地球上のゴミ焼却工場の72%がこの狭い日本列島にひしめくことになってしまった。焼却場の煙突から漏れ出すダイオキシンを防ぐために電気集塵機やバグフィルターをつけるけれど、そこに集まるEP灰やゴミの燃えかすは海辺や水源地に埋められている。そして、地下水や河川、やがて海にしみ出して行く。

ダイオキシンは生物濃縮度が高い。魚や海藻、貝類に濃縮されたダイオキシンを我々は日々摂取している。日本人は欧米人に比べて魚を十倍食べる。その結果、いま日本人の身体に重大な事が起こっている。このことがわが国のゴミ問題のキーポイントである。ダイオキシンは体内に入ると体内脂肪などに蓄えられ、ほとんど排泄されない。そして各種の癌や肝臓障害、皮膚障害を引き起こす。ダイオキシンに汚染された身体は他の病気にかかりやすくなり、老化を早めると言われている。体内のリンパ球を自殺に追い込むからだ。

また、ダイオキシンは染色体に異常をもたらし大変恐ろしい物質であることを、我々はすでにベトちゃんドクちゃんの例から知っている。日本人の身体はすでにかんりのダイオキシン汚染が進んでいる。健康な母親の母乳から高濃度のダイオキシン

が検出されている。日本の赤ちゃんは母乳からアメリカの赤ちゃんの一万八千倍から十万倍も取り込んでいるのだ。摂南大学の宮田教授は乳幼児の突然死やアトピーの原因がダイオキシンでないという証拠を見つけるのは難しいと語っている。

ダイオキシンは地上最強の毒物なのだ。胃酸カリの一万倍、わずか八五グラムで百万人が即死する。かつて水俣でチッ素は自らの資料によって解明されていた事実を隠し続けた。彼らは高度成長期の日本経済を支えるためにその選



は毎日でサバれません。非常に大変です。好きじゃないとおそらくやっていけないでしょう。

それから、最初のうちはちゃんと講義にでましよう。他の人に自分を覚えてもらう事が友達をつくる第一歩だと思います。

言いたい事は他にもあるのですが、スペースの都合上もう限界です。最後にまとめると、皆さん、適度に勉強し適度に遊んで下さい。好きな事を学ぶために私達は大学へ行くのですから。皆さんの健康を祈っています。

●70回 戸梶 涼 (東京大)

私の大学では無料でインターネットに参加する事ができます。誰でも自由にホームページを作成する事ができます。学生の殆どがホームページを作っていて、そのうちのいくつかは素晴らしい出来です。また、それを通じて日本中、ひいては世界中の人とも知り合いになる事も可能です。もっとも、全員が熱中している訳ではありませんが、どれだけつづいていても只なのでから、積極的に参加しない手は無いと思います。また、作るだけではなく、他人のホー

ムページを見て回るだけでもなかなか楽しいものです。気に入ったページがあれば作者にコンタクトを取る事もできます。

他人に情報を公開する事が出来、他人の情報を自由に見る事が出来、さらに、その情報をお互いに交換出来るのがインターネットの長所です。是非、利用して下さる事を薦めます。

●70回 中城 由賀 (明治大)

葉書の追伸にプレッシャーを感じてペンをとりました。母校を卒業して早いもので一年になります。高知に帰るたびに街中ではつい白線の制服を探しています。私は運良く大学に合格し、上京したのですが、一年も経ってしまつと「そろそろ東京も疲れたな」という気がします。それなりに楽しいこともあるのですが……。

六大学野球やラグビーの早明戦は何となく愛校心を感じました。普段は何気なく大学に行っているだけなのですが……。授業はいたって楽なので、この一年それほど勉強したという気がしません。これから資格取得に向けて頑張ろうかと思っています。

自宅から歩いて30秒程で、世界の観光地イバネマ・レブロン海岸に出る。毎日毎日、この海岸を通って通勤していると、土佐の血が騒ぎ始めたと、土佐の血が騒ぎ始めた。海釣りである。平均すれば、月二回は仲間とクルーザーで沖に出る。

これまでは、川釣りや、岸壁・岩場の釣りしかやったことがなかったのが、船に乗ったものだから、最初は船酔いに参った。初めて沖に出た日が悪かった。前日まで雨と風をもたらし低気圧が去って、見事に晴れ渡ったものの、海上波高し。船長も「今日は波が荒いなあ！」

沖の釣り場に到着して、錨を下ろした途端、船体の軽いクルーザーは文字通り木の葉のように大揺れ。うねりの底にいる時は、まわり全部が水の壁。船の揺れに合わせて立っているのが一苦勞。餌をつけたり、魚を針から外したりするのを何度か繰り返しているうちに、完璧に酔っ払い。舷側から、ゲーゲー。それでもしつこく釣りは止めず。この日釣った数ではチャンピオン。以後、「数の戸田」の称号を頂

戴した。

すっかり船に慣れた最近では、北島三郎の『北の漁場』なんかを歌いながら漁場に向かい、揺れをむしろ楽しみながらの釣りで、変われば変わるものである。

リオのまわりの漁場は魚影が濃い。つれる魚も、鯛に平目。鰹に鰹に鰹に鰹。太刀魚、

足の裏から ⑦

数の戸田

川崎製鉄ブラジル支店長
38回生 戸田 博之

黒鯛、金目鯛。カワハギ、カマスにアラにイカとくれば、あまり日本とかわらない。但し、釣れる数が違う。例えば鯛。こちらは勿論天然物。日本のは真鯛と微妙に違うけれど鯛は鯛。

先日、リオを船出してクルーザーで片道約二時間のポイントに向かう。この日、天気

晴朗にして波高からず。当地の船は魚群探知機などという便利な機械は積んでなく、波の上でのポイント探しは、専ら船長の経験に頼るのみ。船長の合図で仕掛けを投入。水深約五十メートル。重りが底に着いて、糸ふけをとった途端にガツンとあたり。フーッ言いながら上げた目の下一尺以上の鯛が二匹一緒に上がってきた。道理で重いはず。後は入れ食い。この日の釣果は鯛五十四匹。「数の戸田」の面目躍如。日本ならまず絶対にこれ程釣れない。間違いない週刊誌もの。

この鯛をクーラーに担いで馴染みの日本レストランに直行。早速、刺身、塩焼、潮汁にしてもいい、文字通り取れたての味に舌鼓。

あーあ、こんな贅沢、日本じゃできませんね!



高知県出身といえ、酒が強いといわれる。私も酒と親しんでから、かれこれ45年位になるが、全く酒を飲まなかつた日は、150日位しかないと思う。こんな私に新しく上京される後輩諸君等のために「筆山」の編集部から、土佐料理の店を3店位紹介しろとの話を持ち込まれた。私よりはるかに酒豪の諸先輩が、沢山いらしやるなかで少々気が引けるが、最近の飲み屋への出席率の高さで引き受けざるを得なくなった。

まず最初に「祢保希（ねぼけ）」と言つても都内には沢山あるので、私が日頃通っているところを紹介しよう。

「祢保希」新宿店（住友ビル50F）は新宿の高層ビル街の中にあり見晴らしのよいことこの上なし。それぞれ見る方向が違つており、東京の街並みを見下ろしながら飲む酒は痛快である。特に昼間飲むのが良い。窓際の席をとると天気の良い日には羽田空港への絶え間ない飛行機の発着の様子が眺められる。徐々に夕闇が迫つてくると下のほうのネオンが順次ついてくる。幾何学的で微妙なコントラストを描きはじめる。これも高層ビ

ルならではの酒の肴である。ここでは、鯉のタタキはもとより季節によつては清水鰻、コウロウ等々。さらにドロメ、ノレソレ、マイゴ、チャンバラそしてテンブラ、チクワ大体系なんでもあり。皿鉢料理のコース等もあり、他県出身の上司、クラスメイトに土佐料理を紹介するには手頃だろう。酒は「土佐鶴」「酔鯨」である。なお、テンブラとチクワは永野のもの。

次いで紹介したいのが、銀座にある「土佐酒蔵」。

前田さんが経営されている店で、毎月第一木曜日に土

佐中・高の卒業生がフリーに集まる「一本会」が開かれてる。回生・男女を問わず都合の良い時、時間に参加すればよいという誠に便利な会合である。大体いつも二十名位は集まるようだ。東京に初めて来られた方々には、先輩や後輩と知り合える良い機会となるだろう。仕事の面でも異業種の付き合いの場にもなる。ときどき宮地支部長もお見え

東京の

「土佐酒蔵」の案内

はら ひろみち

(30回生)



になり気炎をあげていらつしやるので、是非参加されることをお勧めする。最近の中心層は、37、38回生のようだ。非常に面倒見の良い連中が揃っているのだから安心して参加して欲しい。毎回何人かの「ハチキン」卒業生も顔を見せてくれ、誠に和気あいあいとして酒が飲める。なお会費は七千円。

つている。マスターの小原さん、奥さん共に高知西高のご出身。彼のお母さんの時代から慣れ親しんだ店で高知の情報ならここに来れば良くわかる。官々接待華やかになりしころは、各省庁の高知県出身者や東京事務所の方々とお会いする機会が多かったが、最近では全く駄目。それでもたまには、陳情のために上京される市町村の方々にはおめにか

ることがある。

ここは、なんといいても鯉のタタキが売り物、人にもよるだろうが私の口には、このタタキが一番旨いと思う。但し、鯉も旬のものだから時期はずれば責任は持たない。それに柚子の酢を使つたりユウキウウの酢和え、シヤクシナの漬け物、じやこ等は高知を強く思い出させてくれる。その他カウンターの上にはいろんな肴（タケノコ、フキ、サトイモ、ユバ等々）が並んでおり一人ものにも都合がよい。テンブラ、チクワ、スマキ、カマボコは、内藤か

思う。但し、鯉も旬のものだから時期はずれば責任は持たない。それに柚子の酢を使つたりユウキウウの酢和え、シヤクシナの漬け物、じやこ等は高知を強く思い出させてくれる。その他カウンターの上にはいろんな肴（タケノコ、フキ、サトイモ、ユバ等々）が並んでおり一人ものにも都合がよい。テンブラ、チクワ、スマキ、カマボコは、内藤か

らの直送である。この酒は「司牡丹」が中心。程良い広さの座敷もあり、各回のクラス会も時々開かれていよう。概ね会費は、8千5百円程度（一人当たり）で飲み放題である。若い人達にはちょっと高いかもしれないが、飲むほうで元がとれるだろう。元々8千円だったのが5百円値上げになったのは、38回生がとことん飲んだらしい。マスターの言によれば「けんとおまん、幹事の連中が4時頃から来てビールを飲みはじめ、全員揃つた時にはビールが全部のうなったがじやき、ちつたあ上げてもらわにやあ……」。38回生の鯉飲のお陰でとんだとばかり。それはそれとして、「土佐弁」が通用語になる位高知県出身者が多い。

なお、カラオケ好きには姉妹店「八色鳥」がすぐ近くにある。ここでは、深夜まで歌えるし「土佐」からの流れならお値段も程々である。

ともかくこれらの店は、土佐的というか高知のムードで酒が飲める。ただ、高知ではないきに飲みすぎて帰りが大変なことにならないようにご用心。

思いでの先生方⑤ 町田守正 先生(73才)

父・町田守正

長男・53回生
町田 亥作

一般に息子というものはそういうものかもしれないが、父に対しては、敬愛と反発が相半ばする屈折した少年期の思い出が生々しく、三十代を半ば以上過ぎた今に至つても父を語ることがどうも面映やく苦手なものであります。許されることなら御勘弁願いたかつたのですが、他ならぬ土佐校の先輩からの御指名を辞退申し上げることも畏れ多く、恥ずかしながら拙文を披露させていただく次第であります。

私が生まれた時、父は既に母校の教職を退き、故郷の町で町長として地方政治の道を歩み始めておりました。我が国が戦後の復興期を乗り切り、高度成長の波に乗り入るとする時代、地方行政の世界でも町村合併を進め、財政等の基盤を強化し、民主国家に相応しい地方自治を確立するため、重要な時期を迎えた頃でした。若さにまかせ、町政のため忙しく駆け回る父の姿を幼いながらも誇らしく思ったことでした。

今にして思えば、田舎のこととは言え、そこは政治の世界。多忙な日々の明け暮れであつたと思われすが、父は「家庭を顧みず」というタイプではなく、良く子供には接してくれました。家庭で夕飯の卓を囲んだこともごく日常のこととして記憶しておりますし、寝物語などもしてもらつたことも思い出されます。

「東京をみせちゃおう」と言つて、私の頭を両手ではさみ、東の方角に向け高く持ち上げてくれました。その時は、本当に東京の街並みが見えたように感じていました。広い視野を持つて遠くを見据えよ、ということだったのでしようか。

また、熱心なキリスト者として、奉仕的精神を持つべきことや、人に接する際の態度の大切さ、理想を抱いて生きる意味等々について、教師出身らしく子供にも分かる言葉で語ってくれました。親の教えが身に付かない我が身が哀しく思われます。そんな幼い日々の思い出が

ありますが、学齢期から思春期にかけて、今でははつきりとした原因も定かでないのですが、父に対して一言も言葉

を発する事が出来ない状態が数年間続いたことがありますが、キリスト者としての信仰をバックボーンに持ち、自らを律し、理想に生きようとする父がたまになくしんどい存在になつていたのでしょう。乗り越えるべき壁として立ちほだかる父に対する最大の抵抗がコミュニケーションを遮断するということだったと思われ

ます。土佐中学に通う頃にはどうかしやべるようにはなつたのですが、その後も事ごとくに抵抗を繰り返してしまつた。非行少年風に振る舞つてみたり、思想的に左右に激しく揺れてみたりと、他愛もない試みでしたが、ずいぶん親不孝をしてしまいました。

成人に至つてふと気付くと、私は誰に強制されたわけではなく、小学校から土佐校、早稲田と父と全く同じ学舎に過ごし、今ではほんの片隅ではありますが、政治の世界に身を

置いております。

父はその後、県議を経て、一度引退したものの、再度町長に担ぎ出され、老骨に鞭打ちながら愛する郷土のため頑張つています。理想主義的な一徹さ故、栄達とは無縁でしたが、現世に財を積むこと無く、清貧に生きた田舎政治家人生は、息子からみて、この上なく幸福で羨ましいものに思われます。

土佐の諸先輩方から時折、父の熱の入つた世界史の授業風景についてお話を聞かせていただく機会がありますが、父は度々、良き人生を歩む上での歴史への造詣の大切さを語つておりました。不肖の息子は、今になりやつと父の教えを思い出し、文庫本が出たことを良い機会に、ギボンの『ローマ帝国滅亡史』を繙いたりしております。



筆者が4才（昭和38年）頃、自宅で

1996年第46回ベルリン国際映画祭銀熊賞受賞作品



村の中の会

東陽一監督作品

大雨の日、川のようになつてしまつた道はたに鯉が泳がなくて、バサッと跳ねると、ぼくの身体に戦慄が走り抜けてゆくのだ。これは、この映画の原作となつた絵本作家田島征三の自伝的エッセイ「絵の中のぼくの村」の一節。まわりの自然環境と、自分との境界がまだはつきりと区別されずに、地につきつながっている幼い時期の、ぞくぞくする感覚が語られている。

土佐から世界へ 公文先生の遺産

30 回生 中城 正堯

葬儀に同窓生多数参列

公文教育研究会の公文公會長（七回生）が、昨年8月27日に亡くなられ、8月23日に大阪南御堂会館で社葬が行われた。公文先生は昭和24年から三年間、母校の教壇に立たれたうえ、関西、関東両同窓会には必ず出席されていたので、同級生の井上清京大名誉教授をはじめ、多くの同窓生が焼香してくださった。

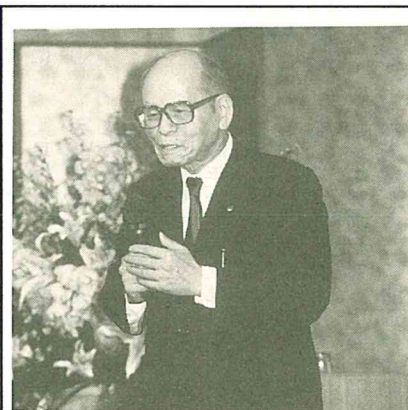
公文先生が創設した公文式は、国内二万教室で一七六万人が数・英・国を、海外三〇ヶ国で62万人が数・国（母国語）を学んでいる。約四千人の参列者には、各国関係者や羽生善治名人の姿もあった。

葬儀で友人代表の宮地貫一 同窓会関東支部長は「先輩は戦前の土佐中教育のすぐれた点を生かしながら、独自の工夫を加え……世界最大の民間教育団体に育て上げられました」と弔辞を読んでもくださり、倉橋由美子さん（29回生）の「先生の教え子であることを誇りに思っています」という弔電も披露された。

三根校長と公文式

海外での公文式の高い実績に關し、ある経済誌は「日本もついに知の技法を輸出できるようになった」と書いた。この世界のクモンも、宮地先輩の弔辞にあったように、その源流は土佐中の初代校長三根円次郎の教育にある。

三根校長のモットーは「自学自習」であった。数学の大野先生は問題集を生徒に与え、解けない所のみ個別に教え、各自マイペースで先へ進ませ



【写真説明】「土佐から世界へ」と題して高知で教育講演をする公文公先生。高知市、南国市両会場とも満席だった。（1993年12月）

た。また公文先生たちは、文学全集や岩波文庫を仲間と貸し借りしながら読みふけたという。この自学自習と読書で、学力も思考力も養った経験から、公文式の計算と読解の教材を開発したのだ。

公文先生は「数学や英語が不得手で高校生活に余裕がなく、読書や文化活動を楽しめなかったり、めざす大学に進

学できないのはもったいない」と考えていた。個人別能力別の単純なプリント教材のおかげで、羽生名人も学業と将棋を両立できたし、優秀児も障害児も、先進国でも、開発途上国でも効果が上がった。

土佐で生まれた公文式が世界に広がるのを、晩年の先生は大変喜ばれ、高知での最後

二十一世紀への遺産

現代教育学では、生徒ひとりひとりの個人別学力や興味に適應した教材や課題を与え、人間が本来持っている知的好奇心という内発的動機を喚起し、問題を解く楽しさを味わいながら知的能力、情報処理能力、自立心を高めることが最も肝要とされている。二十一世紀は、いわば個人別教育の時代なのだが、教育理論はあっても、それに対応した教育技術は未開発であった。公文式教育は、まさにこの世界的教育課題にこたえる、ピタリと教育技術だった。まず、数と言語を速く正確に処理する力を身につけさせる公文式は、二十一世紀のグローバルなコミュニケーションに欠かせない情報処理能力を確実に高める教育法でもある。

最近では、和歌山県智弁学園など、各地の有力高校で公文式の導入が始まり、大きな成果を上げている。公文先生の理想にそった大船の公文国際学園も、中等部に続いて本年度から高等部が開設される。大正時代に旧制土佐中でまかれた種が、昭和に公文式となって日本全国に普及し、平成に世界へ広がり、大きく実を結びつつある。公文先生の遺産が、母校や高知県の教育振興にも役立つことを願わずにはいられない。

（くもん出版社長）

龍尾良雄先生

『全力疾走三十年』の出版を祝う会

全国の高校野球ファンにさわやかな感動を呼んだ純白のユニホーム。「文武両道」をめざし、全力疾走で甲子園のグラウンドを駆け抜けた土佐高球児の足跡と、部員2001

人との交流を中心に、高校野球を通じての幅広い交友が綴られた熱い人間ドラマ。土佐高野球部の前監督龍尾先生が一年間にわたり高知新聞に連載された『全力疾走三十年』



が高知新聞社より出版され、その出版を祝う会が去る10月14日、日本橋の「ロイヤルパークホテル」で開かれ、二百人が出席、会場は熱気にあふれ感動的な会になった。

西田善夫 N H K 解説委員の司会 はユーモア たっぷり。宮地関東支部長（21回）の挨拶に始まり池井優

主要大学進学状況（3月15日事務局調べ）

今回はまだ全ての大学の試験発表が終了していない上、データを公表しない大学もあり、不完全なものになりました。

	土佐	学芸	土塾		土佐	学芸	土塾		土佐	学芸	土塾
北 大	⑧			⑧	3	1	1	⑧	17		
	⑦	3	2	⑦	1	0	0	慶 応	⑦	13	8
	⑥	1	2	⑥	2	2	1		⑥	16	24
東北大	⑧			⑧	3	0	0	⑧	5		
	⑦	7	3	⑦	1	2	0	上 智	⑦	6	6
	⑥	0	1	⑥	3	5	1		⑥	10	6
東 大	⑧	3	2	⑧				⑧	8	10	5
	⑦	4	8	⑦	0	1	0	明 治	⑦	11	8
	⑥	5	14	⑥	1	0	1		⑥	12	10
名 大	⑧			⑧	9	0	1	⑧	3	7	3
	⑦	3	1	⑦	1	1	0	中 央	⑦	4	5
	⑥	3	8	⑥	1	5	3		⑥	11	8
京 大	⑧	11	2	⑧	21	36	11	⑧	2	4	5
	⑦	14	3	⑦	30	57	45	立 教	⑦	5	3
	⑥	1	2	⑥	34	51	22		⑥	4	1
阪 大	⑧	4	3	⑧	5			⑧	3	7	2
	⑦	8	11	⑦	8	5	5	青 山	⑦	6	11
	⑥	8	15	⑥	7	7	5		⑥	12	3
九 大	⑧	3		⑧	13			⑧	17	47	6
	⑦	2	3	⑦	23	24	9	東京理	⑦	19	28
	⑥	3	1	⑥	26	23	15		⑥	15	15

尚、地元高知での出版を祝う会は、9月21日に四百人を

集めて城西館で盛大に行われ、大阪では10月19日にホテル阪神で、日本高野連の牧野会長をお迎えして開かれた。

注記：昭和51年のセンバツで、翌年ドラフト一位で巨人入りした赤嶺投手の豊見城高と対戦。二点リードの九回裏二死一、二塁で、レフトフライを落球したが、見事な返球でホーム寸前で一塁ランナーを刺し、四対三でゲームセット。劇的勝利で甲子園の夜空に『向陽の空』が流れた。

関東支部だより

「五月十八日(土)」に代々木で

平成八年度『関東支部同窓会総会』はかねてお知らせのとおり、今年から時期を変え、新緑まぶしい五月の第三土曜日18日に、場所も代々木の杜に囲まれた『国立オリンピック記念青少年総合センター・国際交流会館』に移して開催されます。従来の一月開催は、年の始めの華やかな雰囲気溢れ、年に一度の集まりに相応しいと好評を博してきましたが、何分催しの多い時期でもあり、冬休み中で帰省中の学生さんも多く、不便の声も多く上がっていました。

そこで今年からは、この春母校土佐高校を卒業したてのホヤホヤの同窓生にも参加してもらえようと五月開催に踏み切りました。『卒業年次一桁の大先輩から71回生まで』この幅広い交流の場こそが、同窓会の理想の姿です。各界でご活躍中の社会人の方々、ご家族を支えて忙しい日々をお過ごしの方の家庭の主婦の皆さん、可能性いっぱいの子供さん(更なる飛躍を目指す予備校生を含む)、声かけあい手を携えて参加して下さい。時期変更の広報が不十分で「今年の同窓会はまだかよ？」のお問い合わせを沢山いただきました。例年この時期に同期会を開いていて、今年から日程を変更された学年の皆様。ご心配、ご迷惑をお掛けしましたことを、お詫び申し上げます。

●学年幹事会

昨年10月14日、中央区箱崎ロイヤルパークホテルにて開催。出席者37名。

活動報告、会計報告に続き任期満了となった役員改選決議が行われた。弱体事務局のバックアップ体制の確立が急務とされるなか、役員の増

員動議が満場一致可決され、現体制に加え新たに副幹事長として、二宮潔氏(千代田化工建設)・市川直介氏(森綜合法律事務所)が関東支部テコ入れの切り札として選任された。

新役員は次のとおり。
支部長 宮地 貫一 21回

幹事長	溝淵 真清	32回
副幹事長	佐々木泰子	33回
同	窪田 秀忠	38回
同	岩村 康生	41回
同	二宮 潔	49回
同	市川 直介	53回
同	吉井 雄二	49回
監査	山本 高敬	25回
同	吉野 保徳	31回
事務局長	鶴和 千秋	41回

支部活動報告

●昨夏8月5日同窓会本部総会に宮地支部長、溝淵幹事長以下六名の役員が出席。

●1月20日広島支部新年総会に事務局鶴和出席。開会冒頭、校歌斉唱の音頭取りに指名されヒヤ汗！

●1月27日阪神大震災のため二年振りの開催となった関西支部新年総会に、溝淵幹事長、事務局鶴和出席。復興、再建への確かな手応えを感じさせるパワフルな総会でした。関東も負けちゃおれんゾ！

●年会費納入状況

本年2月末日現在、関東支部会員二六五九名中四〇%を超える一一八名の方から納入頂きました。ご協力ありがとうございました。引き続き平成八年の会費も宜しくお願致します。『継続は力なり』

高知新聞

2月21日付高知新聞朝刊に「第一回土佐弁劇場」なる催しのニュース。去年から始まった『土佐弁ルネサンス事業』の一環で、土佐弁による対談、コント、紙芝居、演劇が上演されるとか。すたれゆく土佐弁のよさを再発見し、その魅力をアピールしてゆく活動だそうです。

坂東の地に住み着いて十一年、未だ『土佐原人』そのものの毎日を過ごされている関東支部の貴方、是非この催しに参加して『古き佳き土佐弁』・『これぞ正調土佐弁』をご披露してみたいかが……！事務局では今年から高知新聞朝刊の定期購読を始めました。母校に関連する記事、懐かしいふる里の情報等、これからも随時皆様にお知らせする予定です。ご期待下さい。

母校だより

校長 森田 幸雄
春を間近にして、時ならぬ寒波や大雪が続いておりますが、会員の皆様には如何お過ごしでしょうか、先ずは御見舞申し上げます。雪と言えは、高一生のスキー研修団が長野

するべく動き始める。第一回の幹事会を2月27日に行う。

東海支部だより

名古屋は今日も雪だった
事務局長 南 毅一(32回)
この筆山発行の頃は春のさかりですが、「まつこと」寒かったこの冬。あんな白いものが積もることが未だに不思議な南国育ちの土佐っ子。顔を会わす度に「しゅうヒヤイ！」でした。まこと名古屋でもしつかり積りました。

ここ数年、東海支部の会合パターンは、二月総会、八月懇親会ということでしたが、総会を関東支部のそれに合わせ五月に開催することとなりました。考えてみるに、新入生あるいは社会人の異動等一服の時期です。それもベターということになります。

広島支部だより



いのちいっぱい、咲きんさい！ひろしま国体を迎える広島支部からは、平成八年広島支部新年総会・交流懇親会(1月20日(土) 於広島ガーデンパレス)には、鶴和事務局長のご出席ありがとうございました。『同窓生は語る』の部では、「はちきん・いごっそうと私の青春」をテーマにパネルディスカッション風座談会をフロアにも混えて和やかな中にも同窓生らしくなかなか考えさせられるイベントが出来ました。来賓7名広島支部36名の参加者でした。

それは、ひろしま国体でお待ちしております。お元気で

幅広い教育活動への利、活用が期待されています。
第三点として本年度は本校広報活動に関わる特筆すべき出来事がありました。振興会主幹による広報誌「向陽の空」の刊行です。振興会と同窓会それに学校の三者による連携という当為性に向けての当事者各位の御尽瘁に対し、深甚の敬意を表す次第です。なお本校の紹介誌「学校案内」もリニューアルいたしましたので機会があれば是非ご覧下さい。以上意を尽くしません。が校務報告とさせて頂きまず寒暖不順の候、会員諸兄弟のご健勝をお祈り申し上げます。

母校振興会より

土佐中学校・土佐高等学校は、教養高き指導的人物を高知県から輩出させるために設立され、多くの有為な人材を世に送り出してきました。「自学自習、文武両道」の校風は、いまなお同窓生たちに深く愛されています。

創立75周年を経た今日でも、土佐中・高の歩みを残す記録は少なく、土佐中学校土佐高等学校創立40周年記念誌以降は見当たりません。土佐中・高の栄光の歴史が風化してい

くように思われ、また先人たちの高き歩調を残すために、創立40周年記念誌の抜粋「冠する土佐」を発行致しました。土佐中・高を心から愛し、誇りに思っている方々の愛蔵書に加えて頂ければ幸甚に存じます。
また、平成7年12月中には、土佐中学校・土佐高等学校の素晴らしい広報誌「向陽の空」が発行され、皆様のお手元に届くと思います。新しい取り組みとして御一読下さい。
平成7年12月吉日
土佐中・土佐高等学校振興会
会長 田村 恭昭

本部だより

幹事長 岡内 紀雄(34回)
●平成八年度総会
8月3日(土) 高知新阪急ホテルにおいて開催いたしました。午後3時から総会、4時30分から記念講演会、講師は三菱石油(株)社長・泉谷良彦氏(29回)に内定、5時30分から懇親会の予定です。みなさま方多数のご出席をお待ちしています。

●会員名簿

昨年九月、会員名簿(一九九五年版)を発行し、みなさまのお手元におとどけいたし

ました。広告その他、関東支部のみなさまには多大のご協力をいただき、ありがとうございます。なお、合わせて「同窓会協力金(五千円)」につきましても、どうかよろしくご高配下さいますようお願いいたします。

関西支部だより

事務局長 竹原暢子(28回)
早いもので大震災から一年が過ぎました。その節は皆様に大変ご心配をお掛け致しました。今被災地では復興の槌音がたくましく響いています。昨年の関西支部は震災後の混乱から殆どの活動が停止致しました。多少の動きと致しましては後記の通りです。

①シニアクラブ……月一回葛目先輩を中心に囲碁の会を続ける。(於事務局)

②八月の本部総会に支部長出席。災害地の模様を報告。

③1月27日(土)梅田のホテルグランヴィアにて二年振りに新年パーティーを行う。百十余名出席。

④新年パーティーでの席上、支部長、幹事長の交替を発表。

新支部長 永野 元玄(29回)

新幹事長 関口 正彦(41回)

⑤今年は『なんぶう』を発行